

第一回 高岡在宅・緩和医療懇話会

日時：平成19年8月24日（金） 午後7時～

場所：ホテルニューオータニ高岡

開会の挨拶：高岡内科医会会長 小関クリニック 院長
小関支郎 先生

- 1) 済生会高岡病院における終末期医療のアンケート調査結果
—既存マニュアルとの整合性—
済生会高岡病院外科・緩和ケア委員会
棚田安子
- 2) 済生会高岡病院における緩和ケアチーム立ち上げの現状
済生会高岡病院緩和ケア委員会
宝田佐己子
- 3) 高岡在宅・緩和医療における地域連携の具体案
済生会高岡病院での取り組み内容
済生会高岡病院外科部長・緩和ケア委員長
村上 望

特別発言：在宅医療の現状 —診療所の立場から—
富山県医師会常任理事 稲尾医院 院長
稲尾次郎 先生

閉会の挨拶・次回案内
済生会高岡病院長
北川和久

会の終了後、ささやかではありますが、懇親の場を設けています。是非、ご参加の程、よろしくお願い申し上げます。

共催

済生会高岡病院
塩野義製薬株式会社

在宅医療・病診連携の会

高岡在宅・緩和医療懇話会

近年、がん終末期治療における緩和治療の重要性がクローズアップされており、一般病院における緩和ケアチーム活動・緩和ケア病棟・ホスピスにおける終末期治療など多くの取り組みが行われています。また最近の流れとしては、できる限り自宅でご家族と共に過ごす、在宅ホスピスケアの概念が普及しており、これに呼応するかのようには行政も在宅療養支援診療所といった24時間体制の在宅で安心して終末期治療が受けられる仕組みづくりに取り組んでいる現状です。これはスムーズな地域連携によって、治療の初期段階から緩和ケアを充実させ、診断・治療・在宅医療などそれぞれの場面において切れ目なく、また一般病棟と在宅医療に垣根を作らない緩和ケアの提供が目的となっています。この主旨に沿った考え方は、今地域の患者様の最もニーズが高まっている分野であり、診療所と一般病院は緊密な連携が求められている現状と思われます。また終末期に関して、告知や延命処置など種々の問題点についても、単一の病院の見解よりはより多くの地域医療を支える医療者の意見や考え方を話し合い、あるいは講師を招き勉強会なども行うことの必要性も出てきている現状です。今回、企画をさせていただきました《高岡在宅・緩和医療懇話会》(仮称)は、このような地域からのニーズと行政の主旨を踏まえたうえで、現場で地域医療を支えている診療所の先生方と、一般病床にて緩和ケアチーム医療を推進している急性期病院との間で、垣根のない意見交換の場を持ち、患者様の詳細な報告会としても重要な会と思われます。また講師を招いた勉強会などを企画することで、地域連携をさらに充実させ、途切れのない在宅から急変時など必要に応じた病院での終末期医療を提供できることを目的として懇話会の設立をご提案させていただいた次第です。

先生方には、大変お忙しいところを大変恐縮ですが、本懇話会設立の主旨にご賛同いただき、ご出席を賜りますようお願い申し上げます。

富山県済生会高岡病院長
北川和久